

# 柘植地域 まちづくりだより 第314号

発行 柘植地域まちづくり協議会事務局  
三重県伊賀市柘植町一〇六四七番地  
(柘植地区市民センター内)



発行日 令和七(2025)年二月二十八日(金)  
〒五一九一四〇二  
電話 四五八八八〇 FAX 四五八八八三

柘植地域俳句コーナー  
さざ波に  
揺れて日を受く  
菖蒲の芽  
岩倉 佳子

## タイムカプセル掘り起こし

2025(令和7)年2月2日(日)午後1時30分  
分から旧伊賀支所前の築山に埋設された『タイムカプセル』の掘り起こしが行われました。

2001(平成13)年2月2日の伊賀町時代、町民各層からの協力を得て「寄せ書き・記念品」等の物品を『タイムカプセル』に入れ伊賀町



役場(現旧伊賀支所)前に在る築山へ芭蕉像埋設。上が当時の式典写真。  
右から二人目が故垂井町長。  
下は掘り起こし中の3まち協会長

25年後の本年2月に掘り起こすと記されており今般実施したもの。世話人は、3まち協会長。プロジェクト代表の西柘植地区まちづくり協議会・奥澤会長が式典冒頭で挨拶。次いで稲森市長、谷口教育長が来賓挨拶。四半世紀前の地域の状況や個人々の想いが詰まった埋設物は、2月21日から西柘植地区市民センター(ふるさと会館)で展示中。



上は「タイムカプセル掘り起こし」ロケットの趣旨説明をする代表世話人の西柘植・奥澤重久会長  
右は来賓挨拶中の稲森稲尚伊賀市長



春雨や二葉に萌ゆる茄子種 【松尾芭蕉】  
なすびだね

### 『農業研修会』

みんなで農村の将来を考える

～大山田・真泥地区の様子に学ぶ～

【産業交流部会】

毎年農閑期の冬場に産業交流部会主催で『農業研修会』を開催しています。

今年2月8日(土)午後には、お隣の大山田地域の真泥区で『農業者連絡会』と位置付け、地域農業を守っておられる上田賢博さんと、西嶋克司さんをお招きし、この度の地域計画



に、関わって地元で話し合った様子や大山田農林業公社が果たしている役割などについて、具体的に紹介して戴きました。(柘植地域参加者25名)関係者や地域で組織づくりをし活動を

をするので、心配は尽きませんが楽観的な発想も大切に、「将来帰ってきた人たちにバトンタッチできるような」取り組みをすること、10年先は誰にもわからないのだから、まずは今どうしていけばいいかなどを懇談していること、家族ぐるみで取り組む家庭で女性もしっかり位置づいて活動していること、などなどたいへん興味深く、ためになる話さうかがいました。

また、市の農林振興課や、いがふるさと農協からも助言に来ていただき、講演の後は5グループに分かれて、じっくりと話し合いを深めることができました。



この日は雪の降る夕方でしたので、早めに切り上げました。今回の学びを柘植地域の各地区各家庭でも還元していただければと考えられています。

〈西田方計〉

### 『健康講演会』

開催「健康福祉部会」  
部会長 増岡 茂樹

長きに渡り健康福祉部会のイベントに、ご協力頂きました会長様・区長様・部会員・つげまち市民の皆様一言御礼申し上げます。先日、チーム・リーダーの下町区・山川敏弘さんの企画により、地域密着型健康増進イン



ストラクター赤松を四日市から招き、健康講演会を開催する事が出来ました。健康福祉部会も来期より新体制にてスタート致します。今後共、皆様の御協力の程、宜しく御願致します。

【柘植駅開業135周年記念セレモニー】

2月15日午後、日頃から柘植駅の美化等に取り組んでいるメンバーが集まって、2月19日の135周年を直前に控え、ささやかな記念セレモニーを開催しました。



当日、まちづくり協議会の宮田会長が冒頭挨拶。自身の家族の思い出の中で、柘植駅が其々の長い歴史の経過に於いて、一人ひとりの住民が人

其々の形で、思い出を紡いで来た事を紹介されました。次にまち協で公共交通関係の担当をしている川口裕司さんから此れ迄の駅内外の美化活動や花壇整備、喫煙所の設置、鈴鹿亀山方面へのチラシ配布等の報告がありました。

今年、年末に名阪国道から柘植駅迄の『道するべ』を5箇所を設置などしました。

続いて、これからの取り組みとして、SNSを使った発信や柘植駅発の観光コースの明確化、或いは駅周辺のイメージアップや魅力の発信を目指して、柘植駅関連のノベルティ等の開発も考えています。

セレモニーの後、跨線橋の「柘植かるた」パネルや駅前の観光看板などの水あかを落とすなどの清掃をし、環境美化を図りました。今後ともどうか住民の皆さまのご支援ご協力をお願い致します。



『臨時・運営委員会』開催

2月14日(金)『12区連絡協議会』に引き続き午後7時から『臨時・運営委員会』が開催されました。3月末日で任期満了となる柘植地域まちづくり協議会の役員及び監事の改選案を議事として本議案の諮問を致しました。結果、運営委員全員の満場一致で承認され、本議案は可決されました。『臨時・運営委員会』



での承認を以ちまして3月11日開催の『臨時・総会』に於いて本案を諮る次第です。尚、総会構成員各位宛に「臨時総会開催案内状」役員改選案「委任状」の3種書面を区長経由で配布/委任状提出期限は3月4日に尽き、宜しくお願い致します。

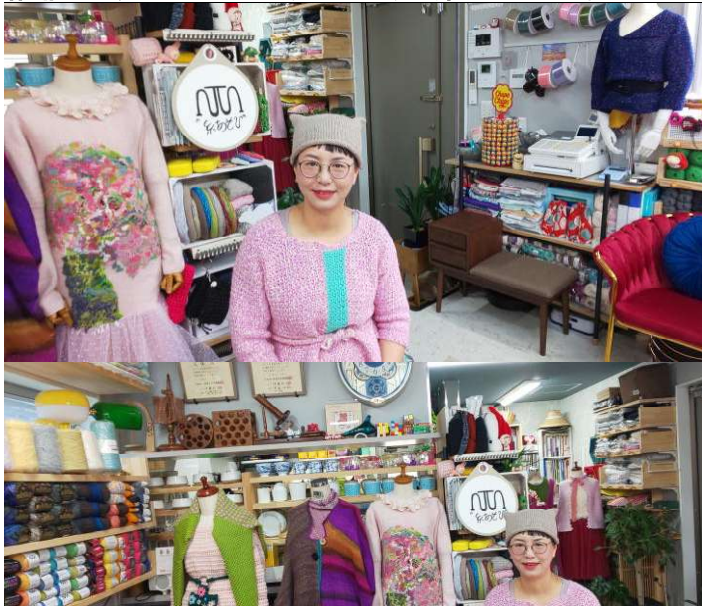
地元自慢【つげのお店】御紹介

第2回

毛糸のお店 『糸あそび』

ニットデザイナー・遠藤 扇(せん)さん

3年前に、大阪で建築業を営む御主人と柘植の山出区に移住された遠藤さん。お店のオープン日は3月25日。日本手芸普及協会の手編み指導員の資格を持ち、昨年末から編物教室も此処で開催中。糸の仕入れは国産のみならずヨーロッパからも輸入し、手編みのマフラーや帽子からニットドレスまで幅広く展開中。「編物に興味の有る方はお気軽にお立ち寄り下さい」と店主の扇さん。素敵なお店です。



【今月のラン】ご紹介

ひし形5角形のこのランの名前はエランギス(マダガスカル島・原産)夜行性の蛾を花粉媒介者にする為、夜に強い香りを放ちます。



アフリカ大陸とモザンビーク海峡で隔てられたマダガスカルは珍種の宝庫  
上町区長置井さんがセンタに届けてくれまして

★編集後記★

薄赤き 顔並びけり 桃の酒 【正岡子規】

▼3月3日、桃の酒を酌み交わし皆薄っすら赤い顔になって居る様子を詠んだ一句。桃の花を浸した「桃の酒」を桃の節句(ひな祭り)に供えてから呑むと、万病を除くと云われています。

▼弥生三月、早春の訪れは五日の「啓蟄」に始まり二十日の「春分」で彼岸の中日を迎えます。此の日、太陽は真東から出て、真西に沈み、昼夜の長さがほぼ等しくなります。本格的な春の到来が今年もやって参りました。

三月の 甘納豆の うふふふふ 【坪内稔典】

▼1944(昭和19)年、愛媛県伊方町出身、80歳立命館大学文学部卒/京都教育大学名誉教授専門は日本近代文学で特に正岡子規に関する著作論考が多く、俳句に於ける遊び心を大事にし軽妙でリズム感豊かな句を詠みました。  
▼三月に食べる甘納豆が美味しくて、思わず「うふふふ」と笑いがこみ上げ、春の到来も相まって、ひとり悦に入る様を詠っています。

▼春は別れと出会いの時節『出会いには偶然別れは必然』・『逢うは別れの始め』は、白居易(中国唐代の代表的詩人・白楽天)の「和夢遊春詩一百韻」所収の「会うは離るの始め」に由来しています。〈清水〉